



校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第9号 令和3年7月7日

小美玉市立美野里中学校

手前味噌ですが「美野里中生の美しい姿」

私は、4月に美野里中に赴任してから、地域の方に以下のようなお葉書をいただきました。

私がグランドゴルフに行く途中、ゴミ集積所でゴミ袋をカラスが引き出し、生ゴミが散乱していました。美野里中の上着を着た女子生徒が、一人で、しかも素手で一生懸命ゴミをかき集めていました。立派な行為のため、ゴルフ仲間にこの話をしたら、全員拍手してくれました。

もちろんお礼の葉書を書きましたが、地域の方に、美野里中生の素晴らしい行いをお褒めいただくのは、まさに百人力です。

私が見えていない生徒の姿は、他にもたくさんあるだろうと思い、先生方が見ている生徒の素晴らしい行動について、アンケートの協力を依頼しました。



その中から、美野里中生の素晴らしさの一端をご紹介します。

朝の旗揚げ、花壇の水やり、自分の役割と仕事に責任だけでなく、誇りをもって取り組む生徒がいます。

「どうしてそんなふうになれるの。一生懸命やっているね。」という会話に、「気持ちいいからです。」と答えてくれました。やらされているというような言葉はありませんでした。

子供の言葉に考えさせられ、励まされていることがたくさんあります。美野里中生は、中学生としてだけでなく、人として手本になる集団だと感じます。

自主的に朝早く来て、廊下などを清掃している生徒が複数います。最初、岡本先生がなさっていたことを、今も継続して、きれいにしてくれています。

放課後登校している子が、野菜に一生懸命水かけをし、楽しそうにキュウリを収穫しています。

毎朝、遠くからでも、野球部・サッカー部が大きな声で挨拶しています。

男子卓球部員で、黙々と練習に取り組んだ生徒がいました。入部当初、初心者であったため、なかなか技術が身に付きませんでした。同級生にも勝てず、腐ってしまいそうな時期もあったはずですが、早めに練習場に来て、率先して台を出し、みんなが練習にすぐ入れるように行動できる縁の下の力持ちでした。練習では、不平不満を一切漏らしませんでした。総体の個人戦では、1回戦で敗退して号泣していましたが、これまで頑張ってきたことを労い、これまでの姿勢は、自信をもって誇れることだと励ましました。

美術部で、自分の制作に集中し、手を抜くことなく自分の世界をととても大事に表現する子がいます。制作以外の活動でも、落ち着いた物腰で、他の子と協力し合って、部長を助け、部を盛り上げてくれています。

美野里中生は、授業5分前に着席するよう、毎休み時間、各クラスの委員が、廊下にいる生徒に声かけをしています。生徒たちもそれに応えて、素早い行動で教室の中に入ります。特別教室への移動も、必ずクラスでまとまって移動することができています。団体行動の基本ができていていると思います。

環境委員会の生徒が、自分の手を真っ黒にして、花壇作りに取り組んでいます。

学年生徒会以外でも、全体に声をかけている生徒が複数います。問題が起こってしまっても、ダメなことはダメと言える生徒が多くいます。

私は、年齢に関係なく、尊敬できる言動がとれる人がいることをいろいろな場面で感じています。「今の若い者は」などと居丈高に言う人がいますが、それどころか、自分などには、到底まねのできない行いをしている若者が数え切れないほどいるのです。

これからの世の中をよりよくしていく一翼を美野里中生にも担ってほしいと心から思いますし、そういう種を早くもっている生徒がたくさんいることを頼もしく、また誇らしく思っています。

